

第 2 回協議会・委員からの意見及び対応

2024 年 2 月 15 日 10:00～11:00

於：豊見城市役所 5 F 多目的室

1、ラストワンマイル交通需要調査の分析結果（資料 3-1）

No	内容	
	小川：	目的地に那覇空港やモノレール駅が多いとあったが、目的地に直行する利用が多く、バスの利用促進には繋がらなかった原因は何か。自治会等で個別の説明会は開催したか。公民館等での説明会を実施することがあれば、バス事業者も協力したい。
	事務局：	クーポンを広報誌に折り込む形で配布し、個別の説明会は開催していない。
	村上：	アンケートを見ると、歩行困難でバスが利用できない方には助かっているという意見があり、これらの方々にはタクシークーポン施策は有効に思える。
	池田：	今回把握した意見を踏まえて、来年度以降の施策に反映していくのか。
	事務局：	今回の調査では高齢者の通院や買物の利用が多いことが判明したので、来年度は高齢者に手厚く配分する方向で検討する。

2、市内を運行する路線バスの地域別需要・供給バランス確認（資料 3-2）

No	内容	
	小川：	GPS 分析で真和志への移動が多いとあったが、具体的な場所はわからないか。
	事務局：	具体的な移動先など詳細を調べて後日報告する。
	比嘉：	この調査は新たなバス路線を導入することにつなげるものと理解してよいか。
	事務局：	本調査は那覇・豊見城市間の需給バランス把握と効率的な輸送環境の構築が目的であり、分析結果から路線新設にはつながらないと考えている。傾向を把握したうえで、必要であればバス事業者と相談のうえ検討する予定である。
	比嘉：	GPS データでは、具体的な経由地点やルートまで把握できるのか。
	事務局：	今回分析に利用した GPS データは発着地点のみであり、経由路線までは把握できない。
	比嘉：	今回把握した移動需要の結果に基づいて、バス利用への誘導やバス利用促進といったことは考えているか。
	事務局：	このような検討を進めることで、使い勝手の良いバス路線を作り上げてい

	村上：	けば、バス利用促進につながると考えている。
	事務局：	分析に使ったデータは利用時間帯も分かるのか。そこまで分かるのであれば、移動者の属性や目的なども把握できる。
	事務局：	利用時間帯のデータはあるので、今後そのような分析・検討を進めていきたい。

3、バス待ち施設アンケート集計結果（資料 3-3）

No	内容	
	池田：	アンケート結果で 18 歳以下が多いというのは、学生なのか。必要な機能として「無料 Wi-Fi」「バスロケ」等が挙げられているのは、彼ら若い年代の意見が多いと感じた。
	事務局：	豊見城市役所 1 回市民広場は隣接する小中学校や高校生の憩いの場となっており、彼らの回答が多かったと思われる。

4、バス乗り方教室の実施結果（豊崎小学校 4 年生対象）（資料 3-4）

No	内容	
	嘉数：	豊崎小 4 年生で実施したが、今後中学生まで対象を広げる計画はあるか。
	事務局：	4 年生とした理由として、高学年になって移動範囲が広がり、バスに乗って友達や家族と出かけることを想定している。学年や開催する学校については、乗り方教室の需要も含めて検討する。
	嘉数：	参加した児童からの感想はどんなものがあつたか。
	事務局：	今回乗り方を知り、子供料金で半額なので自分たちは乗りやすい、出かけるときにはもっと乗ってみたい。また車いす体験を通じて、今後バスで車椅子に乗って困っている人がいれば手助けしたいといった意見をいただいた。
	小川：	子どもが利用できる小児用 OKICA も用意しているので、機会があれば周知してほしい。

5、パーク＆ライド駐車場のニーズ調査結果（資料 3-5）

No	内容	
	村上：	パーク＆ライドでは駐車場に人を誘導できる施設や機能を組み合わせることで、新しいライフスタイルを提案できるのではないかと。自家用車だけでなくシェアサイクルや駐輪場など自転車での利用も考えられる。
	事務局：	意見に基づいて検討を進める。

6、令和6年度以降の総合交通戦略推進支援の施策案（資料3-6）

No	内容	
	池田：	Zippar を含めたモノレール・LRT 等の導入検討については、複数年にまたがって検討を進めるものとしているが、具体的な進め方は考えているか。
	事務局：	まず今年度は Zip 社と連携協定を締結したので、来年度は導入可能性の検討を行い、導入コストや需要などを検討する予定である。
	屋嘉比	105 番のルート検証・見直しについて、南部農林高校では 100 名近い生徒がバス通学しているが、105 番が遅延することで朝 HR に遅刻する生徒がいる。市内他高校も含めてアンケート等調査が必要であれば協力したい。
	事務局：	105 番のルート検証・見直しは次年度以降も引き続き OKICA や GPS データ等の分析に基づき行う予定である。県でも高校生の通学に関するバス利用が懸念されており、学校にも調査協力を検討している。
	宮良：	カーシェアの展開は高齢者対策の一環と思ったが、使い勝手が良くない。運転手が確保できず、社会福祉協議会で運転手ボランティアを頼むという案も出ている。スマホ予約は高齢者には複雑でハードルが高いといった意見も聞く。
	事務局：	開始直後でいろいろな意見を募っているところである。意見に基づいて改善や周知に努め、使い勝手の良いサービスにしていきたいと考えている。
	比嘉：	バス待ちスペースについて、今年度の取り組み状況を説明してほしい。
	事務局：	今年度はアンケート回収・分析を行い、実際の使われ方や意見の収集にとどまる。自年度以降新たなバス待ち施設としてコンビニや公共施設に話を持って行き、1つ1つ増やしていく予定である。